



「お前たちのことは、

忘れたくない」

認知症の父と娘――

離れ行く心を繋ぎ、

再び生きる歓びをもたらしたものの

それは「タンゴのステップ」だった

精神科医・和田秀樹が実際のエピソードを基に描く、希望の物語 「これからの介護との向き合い方」とは

百合子は、子育てを終え、自らの長年の夢である大学教授への道を歩き始めようとしていた。そんなある日、百合子の父で元大学教授の修治郎が痴漢行為で警察に保護された。父の異変を心配した百合子は、修治郎を病院へ連れて行き、そこで予期せぬ事実を知らされる。修治郎は「認知症」を患っていたのだ。病気の進行への不安と介護という現実と衝突し、離ればなれになっていく家族。そんな時、百合子は同じ状況の家族が集う認知症「家族の会」の存在を知る。そこで出会った個性溢れる患者たちと共に、アルゼンチンタンゴを習い始めた修治郎。はじめは見様見真似で始めたタンゴだったが、ステップを踏むうちに修治郎の表情に変化が訪れてくる。そんな父の姿を見た百合子もまた、介護によって諦めかけていた夢に再び向かい始める。

現在1000万人以上の人々が介護に携わっており、劇中で描く「介護離職」をはじめとする、様々な問題と向き合っている。本作は精神科医であり高齢者の臨床に携わるスペシャリスト和田秀樹があるひとつの家族を通し、現在の日本の介護社会における問題を浮き彫りにしながらも、家族とその周辺の人々のリアルな苦悩、そして希望を描く。



◎監督・原案：和田秀樹とは？

老年精神医学を専門とする精神科医。東京大学医学部卒業後、高齢者専門総合病院浴風会病院や川崎幸クリニックで20年以上にわたって老年医療の経験を積む。

◎介護離職とは？

日本では、すでに50万人以上の人々が介護を理由に自らの仕事を辞めている。またその多くを女性が占めている。

秋吉久美子 橋爪功 冨木杏奈 小倉久寛 / 木下あゆ美 斉木しげる 辻本祐樹 / 松原智恵子

監督・原案◎和田秀樹（モナコ国際映画祭 最優秀作品賞「受験のシンデレラ」）脚本◎大石三知子（「ゲゲゲの女房」）エンディング曲◎冨木杏奈「命のタンゴ」

製作◎緑蔵/テンダープロ/コンセプトフィルム/アルファオメガ East Sun Film 配給◎ファントム・フィルム 協力◎北九州フィルムコミッション 助成◎高文化芸術振興費補助金【104分/ヴィスタサイズ/ステレオ】

2013年6月1日(土)

札幌プラザ2・5

狸小路5丁目（元映画館・東宝プラザ） ☎231-3388

3回上映(開場30分前) ① 10:30~12:15 ② 14:00~15:45 ③ 18:00~19:45

料金

一般(大人・大学生) 前売…1,000円(当日1,500円)
シニア(60才以上) 前売・当日とも…1,000円
学生(小・中・高) 当日のみ…500円

プレイガイド発売中!!

・大丸藤井セントラルPG
・道新プレイガイド

電話(携帯)にて前売予約受付します。

090-3773-2696(上村)
090-9513-9869(斉藤)

主催/映画「わたしの人生 ~我が命のタンゴ~」上映実行委員会
後援/札幌市、札幌市教育委員会